

# つながる

Tsu-na-ga-ru

4月号 2022 April No.09



## SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED**  
*plus+*  
病院を  
知ろう

## 救急医療体制は 新たなステージへ。

救急科特集

## CONTENTS

- 1 院長就任・退任のごあいさつ
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

### 院長メッセージ

西三河南部東医療圏(岡崎市・幸田町)では長年にわたり、当院に軽症・重症にかかわらず救急搬送が一極集中する状況が続いてきました。しかし令和2年、藤田医科大学岡崎医療センターが開院し、救急医療の新たな役割分担と連携が進んでいます。今回は地域医療の守護神として、さらなる飛躍をめざす救命救急センターの動きについてご紹介します。ぜひご一読ください。

## 院長就任のごあいさつ

### 診療体制のさらなる充実に取り組み、 〈信頼され、選ばれる病院〉を創る



院長 小林 靖

令和4年4月に岡崎市民病院長に就任いたしました小林 靖でございます。微力ではございますが地域医療の充実と病院の発展に力を尽くして参りたいと願っておりますのでご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私は平成16年に名古屋大学から脳神経内科部長として当院に赴任後、専門の脳卒中・認知症領域で地域医療連携体制の確立に力を注ぎました。平成21年より木村元院長、早川前院長の指導のもと、地域医療連携の担当として病院運営に参画し、その後、医局長、副院長としてこれまでその職務を果たして参りました。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミッ

クにより、日本のみならず世界の情勢が一変、さらに医療を取り巻く情勢もめまぐるしい変化を見せるこの時期に院長就任という重責を託されたことに、身の引き締まる思いがしております。今後も当院が当地域の医療を支える中核病院としての責務を果たすため、地域医療機関との連携強化やがん・循環器系疾患などの高度医療、COVID-19対応を含む救急・災害医療をはじめとする診療体制のさらなる充実に取り組み、〈信頼され、選ばれる病院〉を創るべく職員一同とともに励みますので地域の皆さま、そして関係の皆さまの変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 院長退任のごあいさつ

### 市民から期待され、選んでもらえる オールインワン機能の病院であることを祈念



前院長 早川 文雄

このたび、令和4年3月31日付けをもちまして、院長を退任いたしました。院長在任中は永年にわたり格別のご指導ご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

4年前、岡崎市は愛知県と愛知病院移管に関する覚書を締結しました。機能移行は進み、愛知病院の後方病床化など2病院の役割を明確にし、開設準備の藤田医科大学岡崎医療センターと連携協議を始めました。令和2年度に県が愛知病院をコロナ専門病院にする通達を発し、明け渡しを迫られ、緩和ケア病棟を改修、設置しました。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大に対応し、目まぐるしく状況が変化した4年でしたが、救急をシェアする岡崎医療センターの開設により地域完結型医療の実現が現実的になりました。当院は

「DPC特定病院群」の認定をめざし「選ばれる病院」への努力を続けつつ、公立病院の使命として「オールインワン」の病院と自認しています。

令和3年度は、経営企画室を立ち上げ、コロナ補助金と相まって事業収支が6年ぶりに黒字決算の見込みです。手術支援ロボットやPET-CTなど高度技術を導入し、接遇改善と職員コミュニケーション促進、チーム医療推進を図りました。「選ばれる病院」になるには「受診してよかった病院」になる必要があります。患者さんや職員だけでなく、医・看・薬学生に選ばれる必要もあります。今後「働き方改革」の嵐に立ち向かうため、市民から期待され、選んでもらえるオールインワン機能の高度急性期病院であり続けることを祈念します。



SPECIAL REPORT

# 救急医療体制は 新たなステージへ。

## 救急科特集

地域の救急病院と役割分担・連携し、  
24時間365日市民の命を守り続ける。

CHAPTER 01  
**救急科のトップ同士が  
顔の見える連携を育む。**

「昨日、治療をお願いした心臓病の救急患者さんですが、その後、容体はどうですか。ある日、岡崎市民病院の救急科統括部長・小林洋介のもとに、そんな問い合わせの電話が入った。電話の主は、藤田医科大学岡崎医療センター・救急診療科の医師である。この患者は同センターに一旦、救急搬送されたものの、心臓血管外科手術が必要と判断され、岡崎市民病院へ。そこで直ちに緊急手術が行われ、現在は集中治療センターで術後の管理を続けている。小林はその経緯を電話で丁寧に伝え、適切な判断が患者の救命に繋がったことを確認し合った。両院では、こうした救急科のトップ同士の情報共有が積極的に行われているという。「市内に岡崎医療センターができて、消防署の方も交えて一緒に救急の勉強会を開いてきました。とくに責任者同士、直接、電話でやりとりできる関係は非常に安心ですし、ありがたいと感じています」と小林は話す。

藤田医科大学岡崎医療センターが開院されたのは、令和2年4月。それを機に、西三河南部東医療圏（岡崎市・幸田町）の救急医療体制は、一気に強化された。岡崎医療センターは二次救急医療機関（※）として入院治療の必要な中等症・重症の患者を担当。それにより、岡崎市民病院は本

CHAPTER 02  
**〈迅速・適切・高度〉を  
モットーにさらなる進化を。**

西三河南部東医療圏では、二次救急を担う病院が輪番制で24時間の救急医療に対応。医師不足によりその機能を十分に発揮できない状況が続いてきた。そのため、本来、三次救急医療機関である岡崎市民病院に一次から三次までの救急患者が集中。それでも同院は、「24時間365日、受け入れ要請を断らない」ことを目標に掲げ、年間1万台前後の救急車を受け入れてきたのである。

「次から次へと救急搬送が続いても断らずに頑張ってきたというのは、私たちが誇りにするところなんです。でもその分、ER（救急外来）の最前線のスタッフに大きな負担がかかり、さまざまな課題を抱えていたことも事実」と小林は打ち明ける。同院でERのファーストタッチを中心に担うのは研修医だ。圧倒的な臨床経験を積める利点はあるが、激務だったことも否めない。「余裕ができた分、上級医や指導医のフォロー

BACKSTAGE

**医療機関の機能分化と連携の重要性。**

●救急医療を担う医療機関は、一次、二次、三次の役割分担が定められているが、西三河南部東医療圏では長年にわたり、その体制が十分に確立されてこなかった。それがようやく藤田医科大学岡崎医療センターの開院により、地域完結型の救急医療体制が確立されつつある。

●医療機関の高度な機能分化と連携のもと、岡崎市民病院は地域医療の守護神である病院としての機能を果敢に追求している。今後の活躍に注目していきたい。



来の役割である三次救急医療機関（※）の機能を発揮しやすくなり、心肺停止や多発外傷などの重篤な患者から中等症の患者まで余裕を持って診ることができるようになった。「これまで私たちのキャパシティを超え、市外へ救急搬送されていたようなケースも、地域で対応できるようになり、市民の皆さんにはより安心していただけるようになったと思います」と小林は説明する。さらに今後、愛知医科大学メディカルセンターも、救急医療を拡充する計画を持つ。「そうならば、救急患者さんの受け入れ体制は一層盤石なものになると思います」と小林は期待を寄せる。

※救急医療体制は、重症度に応じて3段階に分けられる。軽症患者は一次救急医療機関（休日・夜間診療所など）、中等症・重症患者は二次救急医療機関、命の危機にある重篤な患者は三次救急医療機関が対応する。

COLUMN

●近年、医療で課題の一つとなっているのが、ACP（人生会議・アドバンス・ケア・プランニング）である。ACPとは、もしものときのために、自分が望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みのことである。

●高齢化に伴い、救急の現場でもACPを示すケースが増えている。そのとき、救急隊や医師はどのように対応すべきか、地域全体での新たな体制づくりが求められている。

をもっと手厚くして、研修医教育を充実させ、当院の救急診療の質をワンランク上に引き上げていきたいと考えています」と小林は抱負を語る。また、時代変化への対応も大きな課題だという。「高齢の救急患者さんが急速に増え、ACP（コラム参照）について考えさせられる場面によく直面しているようになりました。高齢化社会に対応していくため、私たち救急科の医師はこれまで以上に本人・家族の意向を尊重した医療を実現できるような体制づくりに貢献したい。ジェネラリスト（総合診療医）として全人的な医療を提供できるように努力し、時代にふさわしい新たな救急医療体制へ進化させていく必要があると考えています」。

最後に、今後の救急科の目標を聞いた。「端的に表すと、〈迅速・適切・高度〉の3つです。より迅速に患者さんを診察し、適切な検査・診断に繋げ、高度な治療を実践する。この3つを常に心がけ、地域の最後の砦としての役割をしっかりと全うしていく決意です」。小林はそう言って明るく笑った。

# 岡崎のTeam

# チーム医療を知ろう

今回のテーマ

集中治療センター

医師、看護師、そして、多様な専門職が、チーム力で重症患者さんの命を救います。

救急科医師・外科系医師・循環器系医師・研修医が常勤し、各診療科と協力して治療を実施。

当院の救急科では、「ER(救急外来)」「ECU(救命救急センター病棟)」とともに、「集中治療センター」を運営しています。

集中治療とは、生命の危機にある重症患者さんに対して、24時間濃密な観察のもとに、先進的な医療技術を用いて集中的に治療することを指します。

集中治療センターは、ICU(集中治療室)、CCU(冠疾患集中治療室)、HCU(高度治療室)の3室からなり、各専門医が主治医を担当するオープン形式で治療にあたっています。また、救急科医師・外科系医師・循環器系医師と初期研修医が常駐しており、主治医に協力して24時間集中的な治療を実施。重症患者さんの救命に全力を注いでいます。



多面的、総合的な視点で、身体的・精神的苦痛を抑え、早期の社会復帰実現に挑む。

集中治療センターでは、24時間、常に看護師が患者さんの側におり、記録や点滴準備など、すべてをベッドサイドで行うなど、患者さんに合わせた看護を、集中して手厚くご提供します。

看護師以外にも、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士などの専門職が、医師とともに認知症ケア・呼吸ケア・早期離床・栄養管理などのチームを組み、一人ひとりの患者さんをサポート。多面的、且つ、総合的な視点を活かし、患者さんの微細な状態変化を見逃さず、身体的・精神的苦痛を最小限に抑えけるとともに、より早期の社会復帰実現を見据えたチーム医療を展開しています。

## Staff's message



集中治療センター  
集中ケア認定看護師  
福田昌子

刻々と変わる患者さんの状態を、瞬時に評価・分析し、治療に繋ぐ。

集中治療センターに入られる重症患者さんは、単一臓器の疾患に留まらず、複数臓器の機能障害を起こしている方が多くいます。そのため常に患者さんの側にいる看護師は、臨床状態とモニターの数値を、瞬時に評価・分析する能力と技術が求められ、医師や多職種への情報提供や連携促進の役割を担います。

私自身は、集中ケア認定看護師として、実

際の看護提供、その方法・根拠についてのスタッフ指導を担っています。特に留意するのは、ご家族のケアです。希望されることがあっても、なかなか言い難いと思いますが、まずは何でもお話しください。ご家族と私たちが寄り添い、患者さんを支えたいと思います。



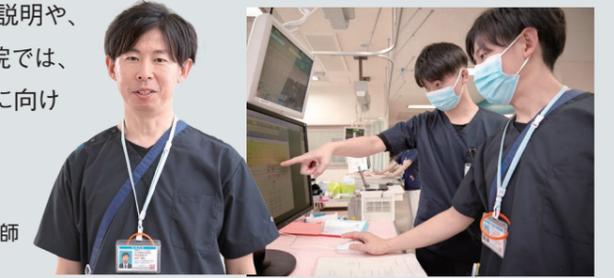
プラスα ▶ 健診のススメ

健診・がん検診で自分の体をしっかり知ることは、健康維持の第一歩です。

# HOSPITAL NEWS

当院初の特定行為看護師が誕生! 患者さんにとってよりタイムリーなケアを提供。

当院初の〈特定行為看護師〉が誕生しました。特定行為とは、研修で身につけた高度で専門的な知識・技能を、医師による手順書をもとに行う診療の補助のことをいいます。必要な医療サービスを医師の判断を待たずに適切なタイミングで届けること、患者さんや家族の立場に立ったわかりやすい説明や、「治療」と「生活」の両面からの支援に貢献できます。当院では、今後も太田看護師に続く特定行為看護師を育成し、運用に向けて取り組んでいきます。



太田看護師が修了した特定行為区分

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連  
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連

集中治療センター 看護師  
太田英征

公式SNSを開設し岡崎市民病院の魅力発信!

当院では、各種公式SNSを開設し、地域の皆さんにさまざまな情報を発信しています。イベント情報、医療チームの紹介、働く職員の舞台裏など、岡崎市民病院の魅力を多くの方にお伝えしたいと思います。ぜひご覧ください。

Instagram @okazaki.hp



Twitter @okazaki\_hp



YouTube



岡崎市民病院 検索



フォロー&チャンネル登録  
お願いします!

医療技術局放射線室に所属する平の研究発表が、『第59回全国自治体病院学会 優秀演題』に推薦されました。

令和3年11月に奈良市で開催された第59回全国自治体病院学会で、当院職員の平 克之診療放射線技師が急性期脳梗塞の患者さんに対するアプローチに関する研究を発表。選考の結果、優秀演題に推薦され、公益社団法人全国自治体病院協議会が発行する機関誌に掲載されることとなりました。

発表演題

「急性期脳梗塞に対するt-PA投与、脳血栓回収療法までの時間短縮の取り組み及び治療の予後への影響についての報告」(平 克之)



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

令和4年 4月21日(木) SNSで“つながる”岡崎市民病院 経営企画室 竹内要子/薬局 川和田百華

5月19日(木) 心の疾患と健康維持のために 心療精神科 統括部長 竹内伸行

6月30日(木) 地域の方から信頼、期待される看護師の育成 ~愛情と責任を持って看護します!~ 教育担当看護長補佐 藤河真美 竹内しのぶ



エフエム EGAO (76.3MHz)



これまでの放送内容は  
こちらから!

病院広報誌 特設サイト



LINE(公式) アカウント

こちらから



岡崎市民病院 OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1  
TEL 0564-21-8111 https://www.okazakihospital.jp/

つながる 2022 No.09 4月号

発行責任者/院長 小林 靖 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム  
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2022年4月